MOTOROLA

GP328
GP338

一般業務/複数波簡易無線対応
携帯無線機

GP328 GP338 の詳細と価格は

towà モトローラ無線機 プレミアディーラー
株式会社トーワ

無線機のトーワ 検索

http://www.towa-inc.net/
http://www.towa-inc.net/1f/5f/gp328-o.htm
http://www.towa-inc.net/1f/5f/gp338-o.htm
mail@towa-inc.net

本　社
〒583-0991　大阪府南河内郡太子町春日98－362
tel 0721-98-1317 fax 0721-98-1373

日本橋ショウルーム
〒556-0005　大阪市浪速区日本橋4－17－9
tel 06-6632-5115 fax 06-6632-5110

MOTOROLA

モトローラ・ビジネスユニット

カタログ等のお問い合わせは、
モトローラ・カスタマーセンターへ　0120-549-533
ホームページ……http://motorola-bizunit.jp

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、モトローラのロゴマーク及び®表示が付された商標はモトローラの登録商標です。文中に記載されている他社の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。
本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」（日本）及び「米国輸出管理規則」による規制を受けますので、当製品を輸出する場合は、同法に基づく手続きが必要です。

発行元　株式会社スタンダード　東京都目黒区中目黒4-9-8
6804022G64-B

©2008.5　STANDARD Co., Ltd.
JM-1

はじめに

このたびはモトローラの携帯用無線機GP338/GP328をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

GP338/GP328は信頼性および操作性に優れた小型で丈夫な無線機です。

本書はGP338/GP328の標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。ご使用前に必ずお読みください。

●ご注意

・通話は、無線局免許状に記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行なうときはこのような制限はありません。

・他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令に違反します。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

危険 この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

警告 この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

注意 この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

お願い 性能を十分発揮できるように、お守りいただきたい事項です。

安全上のご注意

●GP338/GP328本体をお使いいただく前に

安全で効率的な操作を行う上で重要な情報です。携帯用無線機GP338/GP328をご使用になる前に以下の注意をお読みください。
無線を安全かつ効率的に操作するために、以下の指針をお守りください。
携帯用無線機GP338/GP328の電源がONになっているとき、無線周波（RF）エネルギーを送・受信しています。使用している周波数は136MHz帯（VHF）から470MHz帯（UHF）の範囲を使用し（機種によって範囲が異なります）、通信する際に制御装置が無線機の送信出力を制御します。出力レベルは1W～4W(UHF)/5W(VHF)です。

◎無線周波数における電磁波の照射

1996年8月、アメリカ連邦通信委員会（FCC）は、「報告命令書FCC96-326 」の決定に基づき、FCCの許可した無線機から放射される電磁波を人体が受ける際の安全基準について新基準を採用しました。さらに、非電離放射線防護国際委員会（ICNRP）は、無線周波数の照射ガイドラインを含む基準を定めました。モトローラの携帯用無線機GP338/GP328は、こうした基準に適合しています。

必ず、下記の警告事項をお読みになってからご使用ください。

◎運転中のご利用について

自動車運転中の無線機利用については、その地域での条令などをご確認ください。自動車運転中に無線機をご使用になる場合には、安全な場所に車を停車させてから無線通信を行ってください。交通事故の原因となることがありますので運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でご使用ください。

◎爆破区域および爆発性のある危険地帯

爆破区域内および可能性のある危険地帯での無線機の使用は、爆破物への引火の危険性をともなうので、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。また、バッテリーの交換やバッテリーの充電もしないでください。無線機あるいはその付属品によりスパークが発生し爆発を誘発する危険性があります。

◎爆発の危険性がある大気状態

爆発性ガスなど大気状態に爆発の危険性がともなう区域では、無線機の電源をOFFに

し、無線機を使用しないでください。また、バッテリーの交換やバッテリーの充電もしないでください。無線機あるいはその付属品によりスパークが発生し爆発を誘発する危険性があります。
危険地域には、石油コンビナート、船舶のアンダーデッキ、燃料や化学物質の輸送・貯蔵施設、穀物や粉じん、金属粉などの微粒子や化学物質が空気中に含まれている区域などが含まれます。
また、無線機やその付属品の置かれた車内に、可燃性の気体や液体、あるいは爆発の危険性をもった物を載せて輸送したり保管したりしないでください。

◎その他使用にあたって
ゴルフ場などの野外で携帯無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。また、本無線機は直接水のかかる場所や、湿気の多い場所で使用したり、濡れた手などで本機をご使用になると故障の原因となる場合があります。（雨天、降雪、海岸、水辺などでの使用にはご注意ください。）

◎医療用および個人用電子機器との混信
医療および個人用電子機器のほとんどは、電磁波からシールドされています。ただし、十分シールドされていない電子機器については、無線機からの電磁波の影響を受ける場合があります。
アンテナから15センチ以内のところにそれらの機器や他の人がいる場合、無線通信などの操作を行わないでください。
シールドされていないペースメーカ、補聴器などの個人用電子機器には、影響を及ぼす可能性があります。医療施設内や人と人が近接する満員電車の中などに入る場合、医療施設内の各種医療機器や計器あるいは個人の医療電子機器に影響を与える可能性があるため、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。詳しくはそれぞれの製造メーカーおよび販売店にご確認ください。

◎その他電子機器との混信
正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。
航空機内での運用は、航空機の各種装置や計器に影響をあたえる可能性があるため、無線機の電源をOFFにし、無線機を使用しないでください。

◎無線機本体について
火災や感電故障の原因となりますので、分解や改造は行わないでください。通信に支障をきたすほか電波法令に違反します。

◎付属品およびアンテナについて

付属品については弊社販売店にご相談のうえ正しく取り付けてご使用ください。

バッテリー、充電器など周辺機器については必ず専用の物をお使いください。発熱や発火、故障の原因となります。

アンテナについては付属品のアンテナをご使用ください。取り外して基準を満たしていない他のアンテナや、他の部品を付け加えるなどの改造をしたアンテナを使用した場合、通話品質を損ねたり、無線機本体に支障をきたすほか電波法令に違反します。

また、アンテナが破損した場合、その状態のままで無線機を使用しないでください。破損部分が人体等に触れたまま使用した場合、人体に損傷をきたす場合があります。

◎無線通信をするにあたって

無線機を手に持って通信する場合は、無線機のアンテナと人体頭部との距離を2.5 cm以上離して通信してください。また、ベルト等に装着して通信する場合は、無線機のアンテナと人体との距離を2.5 cm以上離して通信してください。

無線機を「使用中」の場合、人体がアンテナに触れていると通話品質が悪くなり、出力レベルが必要以上に高くなることがありますのでアンテナには触れないでください。

◎エアバック付きの自動車について

エアバックは激しい勢いで膨張します。エアバック周辺ならびにエアバックの広がる範囲内に通信機器を設置しないでください。通信機器が適切な場所に正しく設置されていないと、エアバックが膨張した際に通信機器により直接またはエアバックそのものの損傷により人体を損傷する可能性があります。

また、エアバックの寸法、形状、広がる範囲などは自動車の形式や車種によって異なりますので、自動車製造メーカーおよび自動車販売店にご相談ください。

必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

◎直射日光のあたる所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

◎接続端子に金属片等が触れないようにしてください。ショートによる火災や故障の原因になる場合があります。

◎強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。

◎アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナの部分をつかまないでください。
◎接触不良の原因となりますので、オーディオアクセサリを使用しないときには、サイドカバーを付けてご使用ください。

●バッテリーをお使いいただく前に

バッテリーはお引き渡し時には、充分充電されていません。ご購入後の充電は、14～16時間の充電が必要となります。必ず充電してからお使いください。また、バッテリーをお使いになる前に次ページの注意をお読み下さい。

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあり危険です。必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。

◎充電の際には専用の充電器を使用してください。専用以外の充電器などで充電しないでください。
◎高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。
◎バッテリーの端子をショートさせないでください。持ち運ぶ際や保管する時は、端子が金属片などと接触しないようにしてください。
◎火の中に投入したり、加熱しないでください。
◎釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
◎直接ハンダ付けしないでください。
◎分解や改造はしないでください。

誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあります。必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。
◎水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたまま放置しないでください。
◎バッテリーを使用しない場合には、無線機本体からバッテリーを外して湿気の少ない場所で保管してください。

●取扱い上のお願い

お願い

◎電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。

◎無線機本体の清掃の際は、固めの豚毛のブラシに洗剤溶液（台所用洗剤を水に混ぜて作ったもの）を少量つけて軽くこすってください。
清掃後は、糸くずのつかない布できれいに拭き取ってください。
また洗剤の溶液がコネクタ付近、または溝や割れ目に残らないように注意してください。

◎無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。

◎溶剤やアルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

目　次

●はじめに ……2
●安全上のご注意 ……3
●目次……8
●特長 ……10
●製品および付属品の確認 ……11

■準備編

●各部の名称と機能…… 12
電源・ボリュームスイッチ …… 13
チャンネル切替スイッチ …… 13
送信ボタン …… 13
マイク …… 13
ＬＥＤランプ …… 13
ＬＣＤ表示(GP338のみ) …… 14
メニューキー(GP338のみ) …… 15
キーパッド(GP338のみ) …… 16
プログラマブルボタン(GP338のみ) …… 17

●バッテリーの取り付け/取り外し
バッテリーを取り付ける …… 18
バッテリーを取り外す …… 18

●バッテリー
バッテリーの電圧レベルを確認する …… 19
バッテリーを正しくお使いいただくために …… 19
充電方法 …… 21

●アンテナの取り付け/取り外し
アンテナを取り付ける …… 24
アンテナを取り外す …… 24

●電源を入れる/切る …… 25
●音量を調整する …… 25
●チャンネルの切替…… 25
●非常信号アラーム…… 26
●アラートトーン（状態通知音一覧） …… 27

■共通操作

●送信 …… 28
●受信 …… 28
●スキャン（一般業務用のみ） …… 29

■GP338の通信操作

●無線の呼び出し

セレクティブコール（個別、グループ） …… 31
　セレクティブコール（個別通信）の送信 …… 31
　セレクティブコール（個別通信）の受信 …… 32
コールアラート（選択呼出し/個別、グループ） …… 32
ラジオチェック（無線機チェック） …… 33
コールリスト …… 34
スケルチ …… 36
送信出力レベル …… 37
トーンタグ …… 38
　ネームトーンタグ …… 38
　コールトーンタグ …… 39

●スキャン（一般業務用のみ）

スキャンの開始/停止 …… 41
　メニューの使用 …… 41
　スキャンキーの使用 …… 42
トークバック …… 42
不要チャンネルの削除 …… 42
削除したチャンネルの復帰 …… 42
スキャンリストの編集 …… 42
　スキャンリストへの追加/削除 …… 43
スキャンリストの優先設定 …… 44
　優先チャンネルの設定 …… 45

●鳴音/アラームの設定

一般的な方法 …… 47
鳴音/アラーム設定表 …… 48

●ユーティリティー

一般的な方法 …… 49
一般機能設定表 …… 50
時刻の設定 …… 51

■アクセサリー

●ベルトクリップ

ベルトクリップを取り付ける …… 52
ベルトクリップを取り外す …… 52

●アフターサービスについて …… 53

特　長

●音声品質の向上

音声品質を向上するために以下の機能を標準装備しています。

低レベル拡張（ＬＬＥ）
ＬＬＥ機能は受信時に周囲の雑音を押え、通話を聞き取り易くします。

音声圧縮機能
圧縮機能はさらに音声の品質を向上させます。音声を送信時に圧縮し、受信時に伸張することで、周囲の雑音が少なくなります。この機能は音声圧縮機能が設定がされている無線機間の通信時のみ有効です。

●プログラマブルボタン

特定のボタン／キーを無線機操作のショートカット・キーとして登録することができます。
詳細はお買い求めの販売店にお問い合わせください。

●スキャン（一般業務のみ）

この無線機には複数の周波数（チャンネル）が設定できます。
一般局の場合に、他の周波数（チャンネル）が使用されているかどうか、または空いているかどうかを確認する機能です。

●トーンスケルチ

音声信号と一緒に特定のトーン周波数を発信し、このトーン周波数を受信できるグループ内でのみ通信できるように通信対象を限定する機能です。

製品および付属品の確認

はじめに同梱品を確認してください。

●無線機本体およびアンテナ

※お客様のご注文時の選択により、いずれかが同梱されています。

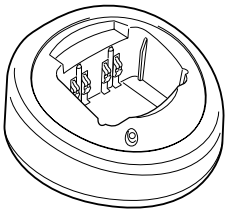
GP328

または

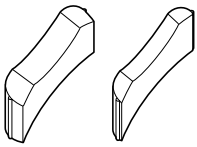
GP338

●バッテリー

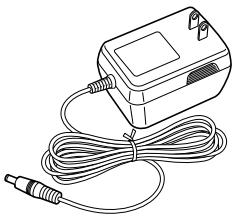
●充電器



充電器



充電器用スペーサー

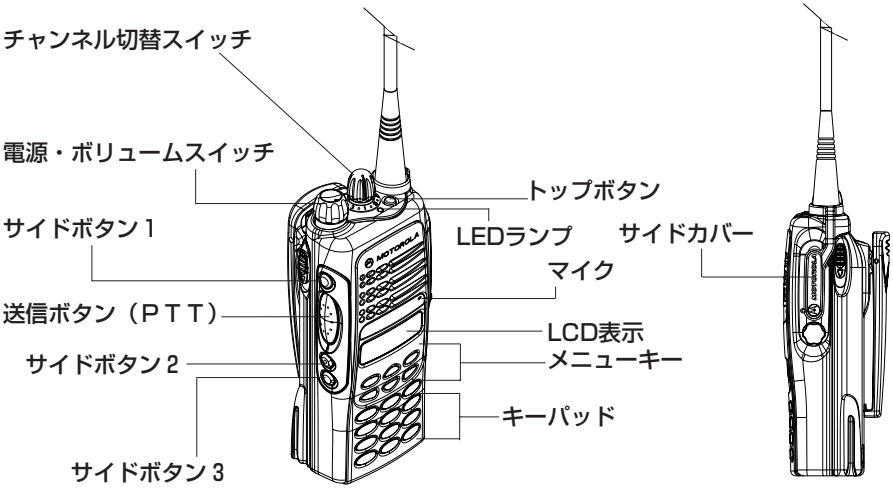


ACアダプタ

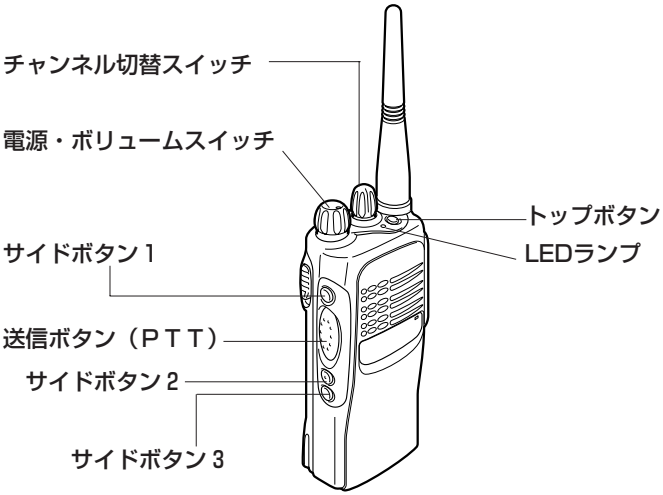
●取扱説明書（本書）

各部の名称と機能

■GP338



■GP328



●電源・ボリュームスイッチ

無線機の電源のオン・オフおよび音量の調整に使用します。

●チャンネル切替スイッチ

チャンネルの切り替えに使用します。

●送信ボタン（ＰＴＴ）

送信ボタンを押し続けている間送信します。離すと受信状態となります。

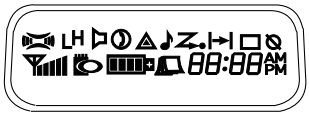
●マイク

送信するときはマイクに向かって話します。

●ＬＥＤランプ

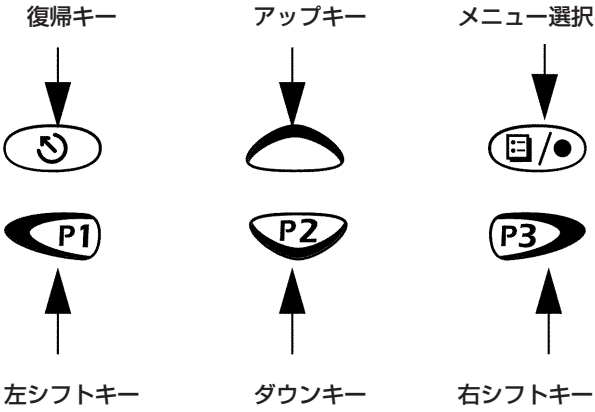
送受信の状態、バッテリーの状況、電源の状況、セレクティブコール（個別通信）の状況およびスキャンの状況を色と点滅・点灯により表示します。

●LCD表示（GP338）



シンボルマーク	名称・内容
	音声圧縮 表示中は音声圧縮の機能が動作中
LH	送信出力 「L」表示中ローパワー、「H」表示中ハイパワー
	スキャン スキャン中表示
	優先１スキャン 優先１スキャン中表示
	優先２スキャン 優先2スキャン中表示
	非常アラーム 非常アラーム信号送信中表示
	セレクティブコール（個別通信） セレクティブコール（個別通信）を受信したとき表示
	モニタ モニタ状態中表示
	プログラミングモード プログラミングモード中表示
	キーパッドロック キーパッドロック中表示
	電界強度 電界強度を５段階で表示
	オプションボード オプションボード動作中表示
	バッテリー バッテリー電圧レベルを表示
88:88 AM PM	時刻 時刻を表示
	機能しません
	機能しません

●メニューキー（GP338）



メニュー選択キー

メニューモードへ入るとき、あるいはメニューモードで選択を確定させるキーです。

復帰キー

メニューモードで１つ前へ戻る（ショートプレス）、メニューモードから出る（ロングプレス）とき使用します。

アップキー

メニューモードでスクロールするときに使用します。

ダウンキー

メニューモードでスクロールするとき使用します。また、プログラムボタンとしても使用します。

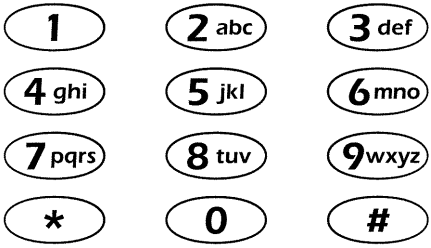
右シフトキー

カーソルの右への移動、または編集モードでスペースの挿入に使用します。
また、プログラムボタンとしても使用します。

左シフトキー

編集モードでバックスペースとして使用します。また、プログラムボタンとしても使用します。

●キーパッド（GP338）



これらのキーはセレクティブコール（個別通信）時の番号入力や編集に使用します。

キー	キーを押した回数										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
0	0	(	)	<	>						
1	1	&	%	#	*						
2 abc	A	B	C	2	a	b	c	2			
3 def	D	E	F	3	d	e	f	3			
4 ghi	G	H	I	4	g	h	i	4			
5 jkl	J	K	L	5	j	k	l	5			
6 mno	M	N	O	6	m	n	o	6			
7 pqrs	P	Q	R	S	7	p	q	r	s	7	
8 tuv	T	U	V	8	t	u	v	8			
9 wxyz	W	X	Y	Z	9	w	x	y	z	9	
*	*	/	+	-	=						
#	#	Blank Space	-	.	!	?	’	”	,	;	:

●プログラマブルボタン（GP338）

以下のいずれかのボタン/キーを指定して、無線機操作の機能をショートカットキーとして登録することができます。
プログラマブルボタンに指定できるボタン/キーは、

・トップボタン
・3つのサイドボタン（サイドボタン1、サイドボタン2、サイドボタン3）
・3つの前面ボタン

のいずれかです。
登録方法の詳細はお買い求めの販売店までご相談ください。

登録したキーに対して、以下の操作をするとショートカットキーとして機能します。

・ショートプレス　　：すばやく押して離す
・ロングプレス　　：1．5秒以上押しつづけた後離す
・プレスアンドホールド　：押しつづけている

機能	ショートプレス	ロングプレス	プレスアンドホールド
非常アラーム信号	非常信号の起動	非常信号のキャンセル	―
モニタ・オープンスケルチ	―	モニタ	オープンスケルチ
ボリュームセット	―	―	ボリューム調整用の連続トーン
バッテリーゲージ	―	―	バッテリー状況
スキャン	スキャンのスタート・ストップ	不要チャンネル削除	―
送信出力	送信出力切り替え	送信出力切り替え	―
キーパッドロック	―	キーパッドロック・解除の切り替え	―
スケルチ	スケルチレベル深・浅の切り替え	スケルチレベル深・浅の切り替え	―
オプションボード	オプションボードオン・オフ	オプションボードオン・オフ	―
セレクティブコール（個別通信）	セレクティブコール（個別通信）	セレクティブコール（個別通信）	―
ライト	バックライトオン	―	―

バッテリーの取り付け取り外し

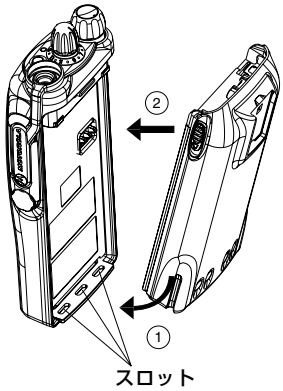
注意：工場から出荷されたバッテリーは輸送時間、在庫期間等によって容量が低下しています。新規に購入したバッテリーは、内部物質の活性化のため、最初の4～6回の充電は必ず14～16時間充電し、容量を完全に回復させてからご使用ください。

●バッテリーを取り付ける

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 本体背面下部の3つのスロットにバッテリーの下部を合わせます。

3 バッテリーの上部を無線機に押し付けるように「カチッ」と音がするまで押し込みます。

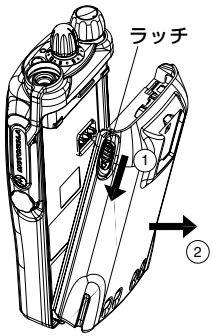


●バッテリーを取り外す

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 バッテリー上部の両側にある 2 つのラッチを押し下げます。

3 バッテリー上部を無線機本体から外します。



バッテリー

●バッテリーの電圧レベルを確認する

GP338では、LCDの表示でバッテリーの電圧レベルの目安を確認できます。またプログラマブルボタンに設定されたバッテリーインジケータボタンを押して、LEDが点灯する色または点滅により、バッテリーレベルを確認することができます。

バッテリーレベル	ＬＥＤ表示	ＬＣＤ表示(GP338のみ)	プレスアンドホールド
高（満充電）	緑	バー4本	
十分	オレンジ	バー２本または3本	または
低	赤点滅	バー1本	
非常低	なし	バー無し、点滅	

補足 電圧レベル表示はあくまでも目安です。また、バッテリーの種類、充電状態、気温などの使用環境、機能の設定などによって、LCD表示およびLED表示のタイミングやバッテリーの持続時間が多少異なります。
また、バッテリーの残量が少なくなった時、送信時に“ピロッピロッ”とアラームが鳴ります。

注意 バッテリーインジケータが表示されないときは、指定以外のバッテリーが使用されている可能性があります。バッテリーを取り外し、弊社販売代理店までご相談ください。

●バッテリーを正しくお使いいただくために

GP338/GP328のバッテリーをお使いいただく上で、100%の性能を引き出すための正しい使用方法を解説します。

バッテリー持続時間

バッテリーの持続時間については以下の動作状態を基に計算したもので、実際の使用状況によって変化します。特に送信回数が多くなると使用時間が短くなります。
このとき次のような送受信の比率を想定しています。
送信：受信：待ち受け受信の比率＝5：5：90

バッテリー	ローパワー	ハイパワー
1450mAh 大容量ニッケル水素バッテリー	約13時間	約 9 時間
1500mAh リチウムイオンバッテリー	約14時間	約10時間
1550mAh 大容量ニッケルカドミウムバッテリー	約14時間	約10時間
1900mAh 特大容量ニッケル水素バッテリー	約18時間	約12時間
1400mAh MAGONE ニッケル水素バッテリー	約13時間	約 9 時間
1800mAh IMPRES ニッケル水素バッテリー	約17時間	約12時間
1900mAh IMPRES ニッケル水素バッテリー	約18時間	約12時間
2000mAh IMPRES リチウムイオンバッテリー	約19時間	約13時間

IMPRES™のバッテリーは自己データを記憶し、充電器はそのデータに基づきバッテリーを最適な状態に充電します。また必要に応じて自動的にコンディショニングを行います。（スマートエネルギー機能）

＊ IMPRES™のバッテリーは、IMPRES充電器と一緒に使用した時のみスマートエネルギー機能の効果が得られます。

充放電寿命（使用環境で差がでます）

各バッテリーの充電および放電の繰り返し回数（サイクル）寿命は次のとおりです。もし、１日数回充放電するような使い方をされる場合には、複数のバッテリーをお持ちになることをおすすめします。

ニッケル水素バッテリー	約300回
リチウムイオンバッテリー	約300回
ニッケルカドミウムバッテリー	約500回

メモリー効果の防止（ニッケルカドミウム/ニッケル水素バッテリー）

メモリー効果とはバッテリーを少ししか使わないで充電を何回も繰り返すと、まれにバッテリーにくせがつき、たとえ容量が残っていても上記の使用状態をバッテリーが記憶してしまうため、使用できる時間が短くなることを言います。これを防止するためにバッテリーの使用できる時間が短くなってきたら、「完全充電から、バッテリー切れのアラーム音が鳴るまで完全に使い切る」を数回行ってください。

使用温度範囲

各バッテリーの使用温度範囲は以下のとおりです。0℃以下の低温で使用される場合には、使用時間が短くなります。

ニッケル水素バッテリー	5℃～50℃
リチウムイオンバッテリー	5℃～50℃
ニッケルカドミウムバッテリー	−10℃～50℃

過放電について

無線機の電源スイッチを切り忘れたまま長時間放置されますとバッテリーが過放電となり、バッテリーの寿命が短くなる原因となります。長時間ご使用にならないときや容量がなくなってきた場合には、必ず無線機の電源スイッチを切るかバッテリーを無線機から取り外してください。

バッテリーの廃棄方法

古くなったバッテリーを廃棄するときには、お買い上げの販売店へご連絡ください。
バッテリーをごみとして捨てると、環境汚染の原因になります。

大切な資源を守るため、リサイクルにご協力ください。

●充電方法

バッテリーの残量が少なくなったときは、以下の方法で充電してください。
P19「バッテリーの電圧レベルを確認する」を参照してください。

補足 家庭用（100V）から充電します。

1 無線機の電源が入っている時は、＜電源/ボリュームスイッチ＞を“カチッ”と鳴るまで左（反時計回り）に回し、無線機の電源を切ります。

2 充電器のケーブルをACコンセントに差し込みます。

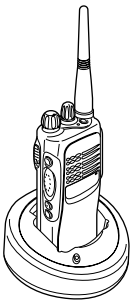
注意 室温（ニッケルカドミウム/ニッケル水素バッテリーは15℃～30℃、リチウムイオンバッテリーは10℃～30℃）で充電してください。バッテリーは温度センサーが内臓されています。凍結したり冷たくなったバッテリー（10℃以下）または熱くなったバッテリー（40℃以上）に対しては、すぐには充電を始めません。またエアコン等の風が直接あたる場所は避けてください。充電時間が長くなる場合があります。3時間以上赤ランプが点灯している場合にはもう一度設置環境を確認し、差し込み直してください。充電後バッテリーが暖かくなりますが、異常ではありません。

3 バッテリーを充電器に差し込みます。

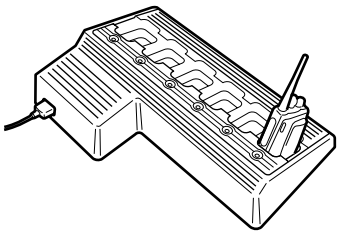
バッテリーは無線機に取り付けたままでも、また無線機から取り外した単独の状態でも充電できます。急速充電が始まると、充電ランプが赤く点灯します。

注意
- 充電器からバッテリーを引き抜く際、充電器本体を押さえながら引き抜いてください。
- 充電ランプが赤く点滅する場合は、もう一度各端子を確かめ、差しこみ直してください。充電ランプが橙色（スタンバイ）になる場合は、バッテリーが冷えすぎていたり熱すぎます。しばらくすると充電を開始しますのでそのままお待ちください。
- 充電器を使用中に、ラジオやテレビなどに雑音が入る場合には、充電器をラジオやテレビから離してください。

補足
- お使いになれる充電器には、電源分離型急速充電器と6連型急速充電器の2種類があります。
- 充電する際に無線機本体とバッテリーを取り付けたまま、あるいはバッテリー単体でも充電することができます。



電源分離型急速充電器
（バッテリーのタイプに応じたスペーサーをご使用ください。）



6連型急速充電器
（同時に6台まで充電することができます。）
※ IMPRES™対応の充電器については、IMPRES™の取扱説明書をご参照ください。

4 充電器のLED表示により充電の進み具合を確認することができます。

ＬＥＤ表示	状況
緑点灯1回	充電器起動
赤点滅	充電不可
オレンジ点滅	充電待機中
赤点灯	急速充電中
緑点滅	約90%充電完了
緑点灯	急速充電完了

5 充電ランプが緑色に点灯すると、急速充電完了です。

補足
- 連続充電により充電器が少し暖まった状態で、次の空のバッテリーを差し込んだ場合、まれに充電器の熱により急速充電がすぐに終わってしまうことがあります。このような場合には、もう一度差し込み直すか、いったん充電器のコンセントを抜いてしばらく休止（約1時間）させてください。
- 緑点灯に切り替わるまでに、約2～3時間かかります。さらに4時間以上充電を続けると、完全に充電できます。
- 電池残量や電池の使用状況により、充電時間は異なります。

アンテナの取り付け/取り外し

●アンテナを取り付ける

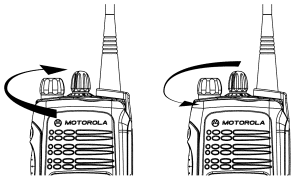
1 アンテナコネクタにアンテナの下部を合わせます。

2 アンテナを時計回りにきっちり止まるまで回します。

●アンテナを取り外す

アンテナを反時計回りに外れるまで回します。

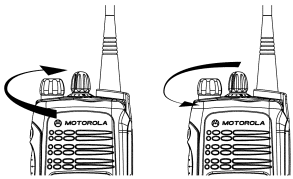
電源を入れる/切る



・電源/ボリュームスイッチを時計回りに回すと「ピッピッ」と音がして電源がオンになります。無線機が正常に起動しますと自己診断パスの鳴音と共に緑のＬＥＤが１度点灯します。無線機が異常の場合は異常の鳴音を発します。
・電源/ボリュームスイッチを反時計回りに「カチッ」と音がするまで回すと電源がオフになります。

音量を調整する

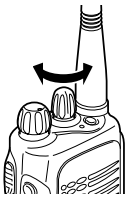
相手の声やキー操作音などの音量を調整します。



1. ボリュームセットボタンを押して現在の音量を確認します。
   ボリュームセットボタンを押している間、連続トーンを発します。
2. 電源/ボリュームスイッチを左右に回して調整します。
   “カチッ”となるまで左に回すと、電源が切れてしまいます。
   ※ ボリュームセットボタンは、プログラマブルボタンから選んで設定します。
   （17ページ参照）

チャンネルの切替

チャンネル切替スイッチを回して使用する
チャンネルに合わせます。



非常信号アラーム（販売代理店での設定が必要となります）

事故や災害などの非常事態が起きたときに、非常信号で司令卓に通知したり、鳴音やLCD表示で近くにいる人に非常状態の発生を知らせることができます。

補足 LCD表示はGP338のみ、GP328は鳴音のみとなります。

工場出荷時は、非常信号アラームの設定はされていません。非常信号アラームは以下のいずれかの方式が、お客様の選択により販売代理店で設定することができます。

●非常信号（一般業務のみ）

特定のボタンをアラームボタンに指定します。そのボタンを押すと、あらかじめMDCシグナルが設定された指令卓へ非常信号が送られます。
指令卓への非常信号の送信と同時に、鳴音やLCD表示（アイコン ⚠ ）で周囲へ非常状態の発生を知らせます。周囲へ知らせる方法は、以下の3種類から選択して設定することができます。

・指令卓への非常信号の送信と同時に、鳴音とLCDにアイコン ⚠ を表示し、待機状態となる。
・指令卓への非常信号の送信のみ行い、鳴音/LCD表示は行わず、待機状態となる。
・指令卓への非常信号の送信のみ行い、鳴音/LCD表示は行わず、また待ち受け（受信）もしなくなる。

●非常サイレン（複数波簡易/一般業務）

特定のボタンをアラームボタンに指定します。そのボタンを押すと、ボリューム最大で鳴音が鳴り、アイコン ⚠ がＬＣＤに表示されます。

補足 非常サイレンを解除するには、再度非常ボタンを押します（ロングプレス）。

アラートトーン（状態通知音一覧）

●アラートトーン

呼び出しを受けたり、エラーや非常事態が発生すると以下のような鳴音でお知らせします。
無線本体が自己診断を行った場合やプログラマブルボタンの機能が設定されているときは、以下のような鳴音で状態を通知します。

・ピッ□（高い音）
・ブ■　（低い音）

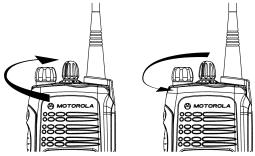
□□＿＿	ピッピッ	自己診断パストーン
■■■■＿	ブー	自己診断フェイルトーン
■□＿＿	ブピッ	昇順音
□■＿＿	ピップ	降順音

●プログラマブルボタン鳴音

機能	昇順音（ブピッ）	降順音（ピップ）
スキャン	スキャン開始	スキャン停止
送信出力	ローパワー	ハイパワー
スケルチ	深	浅
オプションボード	動作開始	動作停止
キーパッドロック	ロック	解除

送　信

1 チャンネル切替スイッチを回して使用するチャンネルに合わせます。



2 送信ボタン（ＰＴＴ）を押してマイクから２.５ｃｍから５ｃｍ離れたところからマイクに向かって話します。

3 話しが終わったら送信ボタン（ＰＴＴ）を離します。

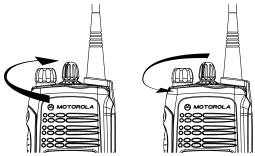
受　信

1 無線機の電源をオンにします。

2 ボリュームレベルを調整します。

3 使用するチャンネルに合わせます。

4 必要に応じてボリュームレベルを調整しながら聞きます。



補足 LEDの点灯と点滅

送信時	赤の点灯
受信時	赤の点滅
コールアラート受信時	オレンジの点灯
スキャン時	緑の点滅

スキャン（一般業務用のみ）

GP338には、16のチャンネルを設定することができます。
設定されたチャンネルをスキャンするために、スキャンリストを設定することができます。
スキャンを開始させると、スキャンリストに登録されているチャンネルをスキャンし、受信しているチャンネルに自動的に切り替わります。
スキャン機能を動作させるキーをスキャンキーと呼びます。

注意 スキャン機能を動作させるためには、スキャンキーを設定する必要があります。詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください。

●スキャンの開始/停止

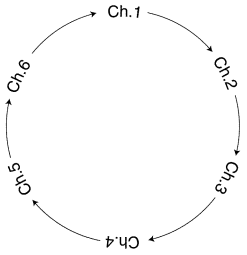
スキャンを開始するには、メニューより選択するか、スキャンキーを使用します。

●トークバック

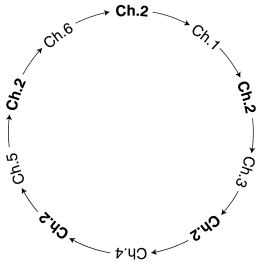
トークバックオプションを設定すると、無線機のチャンネル設定に関係なく、スキャン時に受信したチャンネルのホールドタイム（保持時間）中に、そのチャンネルで送信を開始することができます。詳しくは販売店にご相談ください。

●スキャンリストの優先設定

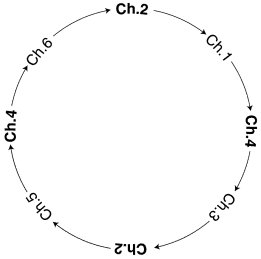
頻繁に通信を行うチャンネルを特別にチェックすることができます。 2 つの優先チャンネルを設定することができます。 6 つのチャンネルを通常のスキャンを行ったときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 に設定したときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 およびチャンネル 4 を優先の 2 に設定したときは次のようになります。



注意 優先の 1 あるいは 2 に設定していないチャンネルでスキャンが停止している間も、優先のチャンネルはスキャンされます。このとき優先チャンネルで受信すると優先チャンネルでスキャンは停止します。

無線の呼び出し

●セレクティブコール（個別通信）（個別、グループ）

セレクティブコール（個別通信）の送信

個別またはグループで通話相手を呼び出しすることができます。

1 ⊟/● を押してメニューモードに入ります。

2 「Radio Call」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Radio Call」を表示します。

```
Radio Call
```

3 ⊟/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Selective Call」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Selective Call」を表示します。

```
Selective Call
```

5 ⊟/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 または P2 を押して登録リストから通話相手を選択するか、呼び出す相手のＩＤ番号を直接入力します。
リストから選択した例 ： 「MDC Call 01」

7 送信ボタン（ＰＴＴ）を押しながらマイクに向かって話します。

8 通信が終わったらPTTを離します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、 ⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

セレクティブコール（個別通信）の受信

セレクティブコール（個別通信）を受信したとき、鳴音を発しＬＥＤがオレンジ色で点滅します。ＬＣＤ表示にはアイコン ♪ の表示とＩＤ番号もしくは登録されている名前を表示します。

●コールアラート（選択呼出し/個別、グループ）

相手に呼び出しをかけても応答がない時、相手の無線機の鳴音を鳴らすことができます。コールアラートを受信すると、ＬＣＤ表示に ♪ を表示し、応答するまであるいは他の操作でキャンセルするまで鳴音を鳴らしつづけます。

注意 ・対象となるのは、最後に受信した呼び出しとなります。
・コールアラートが解除されるまで、個別通信は受信することができません。

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「Radio Call」が表示されていないときは、(へ) または (P2) を押して「Radio Call」を表示します。

```
Radio Call
```

3 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Call Alert」が表示されていないときは、(へ) または (P2) を押して「Call Alert」を表示します。

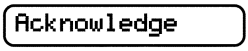
```
Call Alert
```

5 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 (へ) または (P2) を押して登録リストから通話相手を選択するか、呼び出す相手のＩＤ番号を直接入力します。

7 送信ボタン（ＰＴＴ）を押すと送信されます。

8 応答があった場合、「Acknowledge」と表示されます。



また、応答がなかった場合、「No Acknowledge」と表示されます。

9 ⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

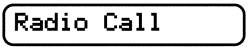
補足 応答がない場合は、通話相手が電波の届かない場所にいるか、電源が入っていない場合が考えられます。

●ラジオチェック（無線機チェック）

相手を呼び出す前に相手の無線機が電波の届くところにいるかどうか確認することができます。

1 目/● を押してメニューモードに入ります。

2 「Radio Call」が表示されていないときは、⌒ または P2 を押して「Radio Call」を表示します。



3 目/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Radio Check」が表示されていないときは、⌒ または P2 を押して「Radio Check」を表示します。

5 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または P2 を押して登録リストから通話相手を選択するか、呼び出す相手のＩＤ番号を直接入力します。

7 送信ボタン（ＰＴＴ）を押すと送信されます。

```
Call in Prog
```

8 応答があった場合、「Acknowledge」と表示されます。

```
Acknowledge
```

応答がなかった場合、「No Acknowledge」と表示されます。

```
No Acknowledge
```

9 通信が終わったらPTTを離します。
ⓒ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、ⓒ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

●コールリスト

アイコン □ がＬＣＤに表示されているとき、コールリストを編集することができます。

注意 コールリストの編集中は受信できません。

編集モードへ入るには

1 ⓔ を押してメニューモードに入ります。

2 「Program Lists」が表示されていないときは、⌒ または P2 を押して「Program Lists」を表示します。

```
Program Lists
```

3 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「RadioCall List」が表示されていないときは、 または P2 を押して「RadioCall List」を表示します。

```
RadioCall List
```

5 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 「Edit Entry」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Edit Entry」を表示します。

```
Edit Entry?
```

7 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

8 または P2 を押して登録リストを選択します。

9 ⓔ を押して確定します。

10 キーパッドを使ってアルファベット、数字または記号を入力します。

11 ⓔ を押して確定します。
ⓜ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、ⓜ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

```
Program Lists
```

補足 コールリストの編集/保存後、再度編集し直す場合は、**8** から再度繰り返し操作することができます。

●スケルチ

特定のチャンネルで不要な電波を受信したり、あるいは周囲の雑音により本来の通信に支障をきたす時、スケルチレベルを深くすることができます。

1 ⊟/● をを押してメニューモードに入ります。

2 「Utilities」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Utilities」を表示します。

```
Utilities
```

3 ⊟/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Squelch」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Squelch」を表示します。

```
Squelch
```

5 ⊟/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 または P2 を押して「Squelch Tight」または「Squelch Normal」を選択します。

```
Sqlch Tight?
```

または

```
Sqlch Normal?
```

7 ⊟/● を押して確定します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

補足 「Squelch Tight」を選択するとスケルチレベルが深くなり、「Squelch Normal」を選択するとスケルチレベルが通常の状態に戻ります。

●送信出力レベル

送信出力レベルを 2 通りに設定することができます。ハイパワーで送信すると通信距離は伸びますが、バッテリーの消耗はローパワーに比べ早くなります。ローパワーで送信すると、バッテリーの消耗を節約することができますが通信距離はハイパワーと比べて短くなります。

ＬＣＤ表示のアイコン **L** はローパワーを示します。アイコン **H** はハイパワー時の表示です。

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「Utilities」が表示されていないときは ⌒ または (P2) を押して「Utilities」を表示します。

```
Utilities
```

3 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Power Level」が表示されていないときは、⌒ または (P2) を押して「Power Level」を表示します。

```
Power Level
```

5 (目/●) を押して確定します。

6 ⌒ または (P2) を押して「Power High?」または「Power Low?」を選択します。

```
Power High?
```

あるいは

```
Power Low?
```

7 (目/●) 押して確定します。
(↺) を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、(↺) を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

補足 「Power High?」を選択すると出力はハイパワーに、「Power Low?」を選択すると出力はローパワーに設定されます。

●トーンタグ

特定の無線機からの呼び出し（名前トーンタグ）、あるいは呼び出し方式（コールトーンタグ）により、特定の鳴音を設定することができます。

ネームトーンタグ

特定の無線機から呼び出された際の鳴音を保存してあるネームリストに合わせて、8種類の鳴音の中から選択することができます。

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「Audio/Tones」が表示されていないときは、(へ) または (P2) を押して「Audio/Tones」を表示します。

3 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Name Tone Tag」が表示されていないときは、(へ) または (P2) を押して「Name Tone Tag」を表示します。

5 ⓜ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または P2 を押してタグを付ける名前を選択します。

7 ⓜ を押して名前を確定します。
LCD表示は次に進みます。

8 ⌒ または P2 を押して使用する鳴音を聞きながら選択します。

9 ⓜ を押して確定します

10 ⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

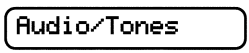
補足 鳴音には標準「Standard」を含めて、全部で8種類あります。

コールトーンタグ

無線機から呼び出された際の鳴音を、コールトーンの種類（コールアラートまたはセレクティブコール）によって、8種類の鳴音の中から選択することができます。

1 ⓜ を押してメニューモードに入ります。

2 「Audio/Tones」が表示されていないときは、⌒ または P2 を押して「Audio/Tones」を表示します。



3 ⓜ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Call Tone Tag」が表示されていないときは ⌒ または P2 を押して「Call Tone Tag」を表示します。

Call Tone Tag

5 ⊟/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または P2 を押してタグを付ける呼び出し方式を選択します。

7 ⊟/● を押して呼び出し方式を確定します。
LCD表示は次に進みます。

8 ⌒ または P2 を押して使用する鳴音を聞きながら選択します。

9 ⊟/● を押して鳴音を確定します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

補足 鳴音には標準「Standard」を含めて、全部で8種類あります。

スキャン（一般業務用のみ）

GP338には、16のチャンネルを設定することができます。
設定されたチャンネルをスキャンするために、スキャンリストを設定することができます。
スキャンを開始させると、スキャンリストに登録されているチャンネルをスキャンし、受信しているチャンネルに自動的に切り替わります。
スキャン機能を動作させるキーをスキャンキーと呼びます。

注意 スキャン機能を動作させるためには、スキャンキーを設定する必要があります。
詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください。

●スキャンの開始/停止

スキャンを開始するには、メニューより選択するか、スキャンキーを使用します。
スキャンを開始するとＬＣＤ表示にアイコン が表示されます。送信中もこのアイコンは表示されます。
また、スキャン中はＬＥＤが緑で点滅します。この点滅はチャンネルを変更すると停止(消灯)します。

注意 スキャン中にメニューモードに入るとスキャンを停止します。メニューから復帰すると、再びスキャンを開始します。

メニューの使用

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「System Scan」が表示 されていないときは、 または (P2) を押して「System Scan」を表示」します。

```
System Scan
```

3 (目/●) 押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 または (P2) を押して「System Scan On?」または「System Scan Off?」を選択します。

```
Sys Scan On?
```

または

```
Sys Scan Off?
```

5 (目/●) 押して確定します。

補足 「System Scan On?」を選択するとスキャンが開始し、「System Scan Off?」を選択すると停止します。

スキャンキーの使用

1 スキャンキーを押すとスキャンを開始します。

2 再度スキャンキーを押すとスキャンを停止します。

●トークバック

トークバックオプションを設定すると、無線機のチャンネル設定に関係なく、スキャン時に受信したチャンネルのホールドタイム（保持時間）中に、そのチャンネルで送信を開始することができます。詳しくは販売店にご相談ください。

●不要チャンネルの削除

スキャンリストで設定しているチャンネルの中で、ノイズや混信がひどくて使用できないチャンネルをスキャンリストから削除することができます。

1 不要チャンネルで停止しているときスキャンキーを鳴音が鳴るまで押しつづけます。

2 スキャンキーを離します。

注意 優先スキャンチャンネルは削除できません。また、少なくとも１チャンネルはリストに残す必要があります。

●削除したチャンネルの復帰

1 スキャンキーを押してスキャンを停止させます。

2 スキャンキーを押してスキャンを再開します。

●スキャンリストの編集

最大１６チャンネルまでスキャンしたいチャンネルをリストの中から選択することができます。すべてのチャンネルをリストにアサインすることができ、また、選択したチャンネルだけをリストにアサインすることができます。スキャンを開始すると、リストを参照し、この中で受信を行います。
このリストを編集すると、現在設定しているチャンネルが編集されます。編集モードに入るとアイコン□がＬＣＤに表示されます。

注意 スキャンリストを編集中は、どのチャンネルも受信できません。

スキャンリストへの追加/削除

1 ⓜ/● を押してメニューモードに入ります。

2 「Program Lists」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Program Lists」を表示します。

```
Program Lists
```

3 ⓜ/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Scan List」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Scan List」を表示します。

```
Scan List
```

5 ⓜ/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 または P2 を押して「Add Entry?」または「Delete Entry?」を選択します。

```
Add Entry?
```

または

```
Delete Entry?
```

7 ⓜ/● でオプションを決定します。

8 または P2 を押して追加または削除するチャンネルを選択します。

注意 最後の1チャンネルは削除することはできません。

9 ⓕ/● を押して確定します。

追加したときは

```
Entry Saved
```

削除したときは

```
Entry Deleted
```

10 ⓕ/● を再度押して削除を確定します。

⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。

または P2 を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

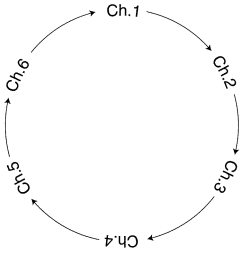
```
Add Entry?
```

または

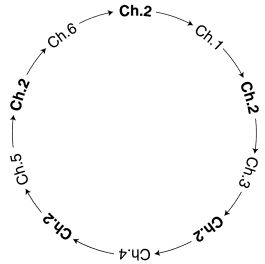
```
Delete Entry?
```

●スキャンリストの優先設定

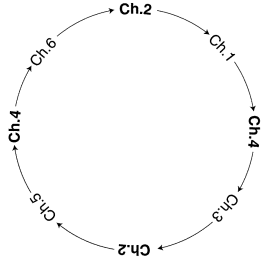
頻繁に通信を行うチャンネルを特別にチェックすることができます。 2 つの優先チャンネルを設定することができます。 6 つのチャンネルを通常のスキャンを行ったときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 に設定したときの順序は次のようになります。



チャンネル 2 を優先の 1 およびチャンネル 4 を優先の 2 に設定したときは次のようになります。



注意 優先の 1 あるいは 2 に設定していないチャンネルでスキャンが停止している間も、優先のチャンネルはスキャンされます。このとき優先チャンネルで受信すると優先チャンネルでスキャンは停止します。

優先チャンネルの設定

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「Program Lists」が表示されていないときは、 または (P2) を押して「Program Lists」を表示します。

```
Program Lists
```

3 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Scan List」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Scan List」を表示します。

```
Scan List
```

5 目/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 「Edit Priority?」が表示されていないときは、 または P2 を押して「Edit Priority?」を選択します。

```
Edit Priority?
```

7 目/● を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

8 または P2 を押して「Priority #1?」または「Priority #2?」を選択します。

```
Priority #1?
```

または

```
Priority #2?
```

9 目/● を押して優先レベルを選択します。

10 または P2 を押して優先にするチャンネルを選択します。

```
Edit Priority?
```

11 目/● を押して確定します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

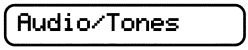
鳴音/アラームの設定

鳴音・アラームを変更することができます。

●一般的な方法

1 (目/●) を押してメニューモードに入ります。

2 「Audio/Tones」が表示されていないときは、 ⌒ または (P2) を押して「Audio/Tones」を表示します。



3 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 ⌒ または (P2) を押して変更する鳴音・アラームを選びます。

5 (目/●) を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または (P2) を押して設定項目を選択します。

7 (目/●) を押して確定します。
(↺) を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、(↺) を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

補足 次ページの表を参考に設定を行ってください。

●鳴音/アラーム設定表

メニュー	設定	動作
Alert Vol Lv1	Ind Alert Off Ind Alert On	鳴音／アラートをボリューム連動にする場合は ＯＦＦに、非連動にする場合はＯＮに設定できます。
Tone Disable	Tones On Tones Off	すべての鳴音、アラートのＯＮ／ＯＦＦが設定できます。
Name Tone Tag	Standard Soundwave Ring Arpeggio Astral Ding Dong Triangle Lullaby	ネームトーンタグの鳴音を８つの中から選択できます。
Call Tone Tag	Standard Soundwave Ring Arpeggio Astral Ding Dong Triangle Lullaby	コールトーンタグの鳴音を８つの中から選択できます。
Escalert	Escalert On Escalert Off	音声鳴音の音量をだんだん大きくするときＯＮにします。
Companding	Compand On Compand Off	圧縮機能のＯＮ／ＯＦＦを選択できます。
Keypad Tones	Tones On Tones Off	キーパッドを押したときの音をＯＮ／ＯＦＦが設定できます。

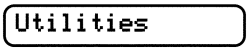
ユーティリティー

ユーティリティメニューではいくつかの設定を変更することができます。

●一般的な方法

1 ⓔ を押してメニューモードに入ります。

2 「Utilities」が表示されていないときは、 ⌒ または P2 を押して「Utilities」を表示します。



3 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 ⌒ または P2 を押して希望するメニューを選択します。

5 を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または P2 を押してさらに設定する項目を選択します。

7 ⓔ を押して確定します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、 ⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

補足 次ページの表を参考に設定を行ってください。

●一般機能設定表

メニュー	設定	動作
Squelch	Normal Tight	スケルチレベルが設定できます。
Power Level	High Auto Low	送信出力レベルが設定できます。
Clock	Clock On Clock Off Set Time	時刻表示のＯＮ／ＯＦＦ、時刻の設定ができます。
Reminder Alarm	Alarm On Alarm Off Set Time	アラームのＯＮ／ＯＦＦ、時刻の設定ができます。
Light Disable	Lights On Lights Off	バックライトのＯＮ／ＯＦＦが設定できます。
Software Version #		ソフトウェアのバージョン表示ができます。
Option *1	Opt Board On Opt Board Off	オプションボードのＯＮ／ＯＦＦが設定できます。
When Available *1	Record Msg AutoReply On AutoReply Off	メッセージを録音することができます。

＊１：オプションボードを追加したときのみ、設定することができます。

●時刻の設定

1 ⓔ を押してメニューモードに入ります。

2 「Utilities」が表示されていないときは、 ⌒ または P2 を押して「Utilities」を表示します。

```
Utilities
```

3 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

4 「Clock」が表示されていないときは、 ⌒ または P2 を押して「Clock」を表示します。

```
Clock
```

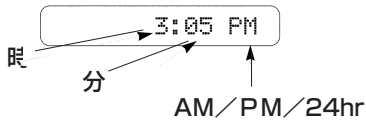
5 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

6 ⌒ または P2 を押して「Set Time?」を選択します。

```
Set Time?
```

7 ⓔ を押して確定します。
LCD表示は次に進みます。

8 時刻を設定する時、 P3 を一度押すと分の設定、２度押すとAM／PM／24時間表示の設定に変わります。



9 ⌒ または P2 を押して時、分、１２・２４時間表示を選択します。

10 ⓔ を押して確定します。
⏻ を押すと（ショートプレス）メニューモードに戻ります。
または、 ⏻ を押し続けると（ロングプレス）メニューモードから待機中の画面に戻ります。

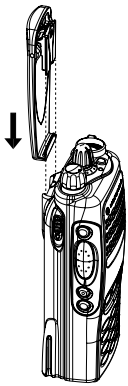
ベルトクリップ

アクセサリー（ベルトクリップ）が必要な場合は、無線機をお買い求めの販売店までお問い合わせください）

●ベルトクリップを取り付ける

1 バッテリー背面の溝にベルトクリップのガイドを合わせます。

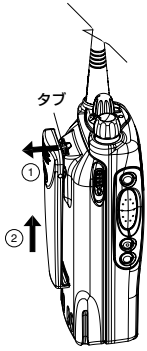
2 ベルトクリップを下向きに「カチッ」と音がするまで押し下げます。



●ベルトクリップを取り外す

1 ベルトクリップのバッテリーとの接合部分のタブを押し広げます。

2 ベルトクリップを上部方向へスライドさせ取り外します。



アフターサービスについて

GP338,GP328 は、お買い求めの販売店で定期的に点検を受け、常にベストな状態でご使用ください。

1 保証期間について

(i) 無線機本体

保証期間は、お客様が運用を開始された日より 2 年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。当社修理規定に基づき、無償で修理いたします。

(ii) バッテリー

保証期間は、お客様が運用を開始された日より 6 ヵ月です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合には、お手数ですが、お買い上げの販売店へご連絡ください。無償で交換をいたします。なお、交換品の保証期間は、交換時期に関係なく、最初のお買い上げより 6 ヵ月が無償保証期間となります。

2 保証期間経過後の修理

お買い求めの販売店にて修理（有料）いたしますのでご相談ください。